

# 教師になって

江差町立江差小学校

教諭 澤口 厚平

平成19年度採用

(先天性左手短指症)

私は、北海道で教職について4年目になります。

現在は、檜山管内の江差町立江差小学校で4年生27名の担任をしています。

「教師になりたい」と思ったのは、小学校5、6年生の時の担任の先生の存在が大きいです。私には、「先天性左手短指症」という障害があ



り、低・中学年の頃はクラス替えのたびに担任の先生に自分の障害のことをクラスの友達に話してもらっていました。でも、高学年の時の担任の先生は、「自分で伝えなさい」と言いました。緊張しましたが、自分の言葉で友達に話すことで、自分の思いがよく伝わったように感じました。自信がついたのか、それ以来、左手に対する周りの視線も気にならなくなりました。振り返ってみると、その先生は、「障害から逃げるな」ということを伝えなかったのだと思います。

私もその先生のようになりたいと思い、教職に憧れるようになりました。採用前、いろいろな不安はたしかにありましたが、障害のことで悩むことはあまりありませんでした。むしろ、「障害があっても、いろんなことにチャレンジできる」ということを子どもたちに伝えられたらいいと思う気持ちが強かったです。その思いが子どもたちの心に響くように、今一生懸命に頑張っています。

教師になって一番うれしいと感じる時は、子どもたちの些細なことでも、成長を感じ取れた時です。「筆算ができるようになった」、「友達に優しく声をかけていた」など、そうした子どもたちの姿を見つけたときは自分がエネルギーをもらえます。

まだまだ未熟なところが多いですが、これからも子どもたちとともに着実に成長できる教師でありたいと思っています。